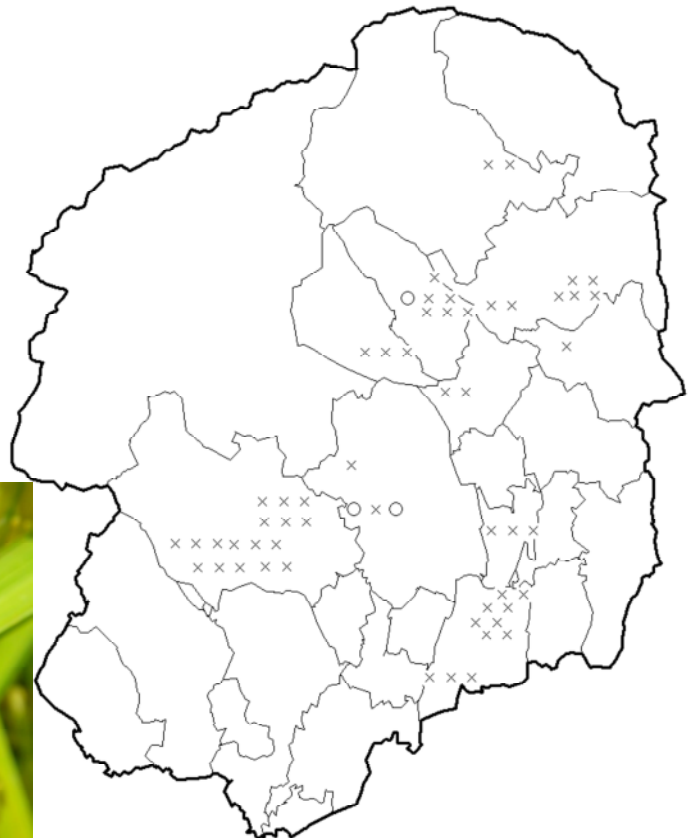


今後の斑点米カメムシ類の動向に注意しましょう！

6月末のイネ科雑草地すくい取り調査では、斑点米カメムシ類成虫の発生程度（平年比）は発生地点率が少～平年並、頭数は少～やや少（表1）でした。6月中旬以降の気温の低さから越冬地からイネ科雑草地への飛来が遅れていると考えられ、特にクモヘリカメムシ（図1）は少なく、山際の雑草地の一部にのみ飛来している状況（図2）です。

7～9月の平均気温は高いと予想されているため、今後、気温の上昇と共にクモヘリカメムシを始め、斑点米カメムシ類の水田への飛来・発生量が急増する可能性があります。

水田内、畦畔及び水田周辺の雑草管理を徹底するとともに、発生状況に応じて表2を参考に適切な薬剤防除を行いましょう。



程度	無	やや少	平年並	やや多	多
頭数(頭)	0	1-2	3-7	8-9	10以上
記号	x				

図1 クモヘリカメムシ成虫

図2 クモヘリカメムシ成虫の地点別発生状況

表1 イネ科雑草地における斑点米カメムシ類成虫の発生状況

分類	発生地点率(%)				頭数(頭)			
	H24	平年	H23	発生程度	H24	平年	H23	発生程度
クモヘリカメムシ	5.3	40.1	31.1	少	0.1	5.7	1.0	少
ホソハリカメムシ	29.8	51.8	66.7	やや少	0.8	1.6	1.9	やや少
アカヒゲホソミドリカスミカメ	78.9	86.0	88.9	平年並	4.0	9.1	9.7	やや少
アカスジカスミカメ	75.4	70.7	77.8	平年並	5.1	13.1	12.3	やや少

本年は6月26～27日に57地点で20回振りすくい取り調査を実施
平年値は平成18～23年の6年間の平均値（調査時期6月末～7月上旬）

防除対策

耕種的防除による対策

- ・ 水田内にイネ科雑草（ヒエ等）の穂やイヌホタルイの小穂が発生すると、斑点米カメムシ類を水田へ誘引するため、できるだけ早めの除草に努めましょう。

- ・ 畦畔及び水田周辺のイネ科雑草の穂には、斑点米カメムシ類が集まっています。

水稲出穂2～3週間前と水稲出穂直前（草刈りしたイネ科雑草が出穂する前）の両方で除草ができれば、水田周辺のイネ科雑草の穂を長期間抑えることにより、カメムシ類の水田への侵入をさらに低減することができます。

両方の除草ができない場合は、遅くとも水稲の出穂期10日前までには除草を済ませましょう（病害虫防除対策のポイント 16参照）。

薬剤防除による対策

- ・ 穂揃期に斑点米カメムシ類が水田内で見られる場合は、乳熟初期（出穂期7～10日後）までに防除しましょう。

望ましい散布時期は、粒剤は出穂期～出穂期の7日後、液剤・粉剤は乳熟初期（出穂期7～10日後）までです。

- ・ その後もカメムシ類が見られる場合は、7～10日間隔で1～2回の追加散布を行いましょう。

表2 水稲のカメムシ類に登録のある主な薬剤（平成24年6月29日現在）

薬 剤 名	希釈倍数 又は使用量	使用時期 / 使用回数
スタークル1キロH粒剤	1kg / 10 a	収穫 7日前まで / 3回以内
スタークルメイト1キロH粒剤		
ダントツ粒剤	3～4kg / 10 a	収穫 7日前まで / 3回以内
スタークル液剤10	1000倍	収穫 7日前まで / 3回以内
スタークルメイト液剤10		
MR・ジョーカーEW	2000倍	収穫 14日前まで / 2回以内
クラブフロアブル	1000～2000倍	収穫 14日前まで / 2回以内
クラブ粉剤DL	3～4kg / 10 a	収穫 14日前まで / 2回以内
スミチオン乳剤	1000倍	収穫 21日前まで / 2回以内
スミチオン粉剤3DL	3～4kg / 10 a	収穫 21日前まで / 2回以内 ¹
トレボンEW	1000倍	収穫 21日前まで / 3回以内

1 但し、出穂前は1回

詳しくは農業環境指導センター (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>) までお問い合わせください。

Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012